

## II. 調査結果の分析

### 9. 保護者の保育参加

多くの保育園が高い率で実施しています。親の親育てとして、親トレーニングの学習現場として育児の方法を学んでもらう形から、参観で製作や遊び、食事の手伝いなどに参加してもらうものなど、その方法やスタイルは、様々な工夫がされている事と思います。共同で保育する運営方法を取れば、親や保護者に当番の割当の様なものがある事が当然の様に起こってくるはずですが、夫々の保育園の中での参加のバランスがあるはずですが、保育園が親の就労支援の場であるとはいいいながらも、あまり園に任せきりでもバランスとして依存が強すぎ親子関係の中で育てていく関係をうまく親と子で作っていく事が困難になります。実施している保育園の割合が今のところ5割から6割になっていることは、保育園の保育を親とともに考えていく現場の考えのバランスが、余り心配ない様に思われます。さらに「都市部での保育参加が66.7%」となっている事が、驚きです。就労でゆとりが無い保護者が多いと予測されるにも関わらず実施園が多いという事が、公私ともに忙しい親への意識付けへの発信、その上に時間調整の工夫が細やかにされているはずですが。(細川)